

栽培方法 掲載野菜一覧

1. えだまめ
2. えびいも
3. オクラ
4. かぶ
5. かぼちゃ
6. カリフラワー
7. キャベツ
8. 結球レタス
9. こまつな
10. さつまいも
11. さやいんげん(つるあり)
12. さやいんげん(つるなし)
13. しゅんぎく
14. じねんじょ
15. すいか
16. スイートコーン
17. ズッキーニ
18. そらまめ
19. たねのさき
20. だいこん
21. だいず
22. チンゲンサイ
23. とうがん
24. ながいも
25. にんじん
26. にんにく
27. はくさい
28. 葉ごぼう
29. プリンスメロン
30. ブロッコリー
31. ほうれんそう
32. みずな
33. モロヘイヤ
34. 落花生
35. ラディッシュ
36. リーフレタス
37. わけぎ

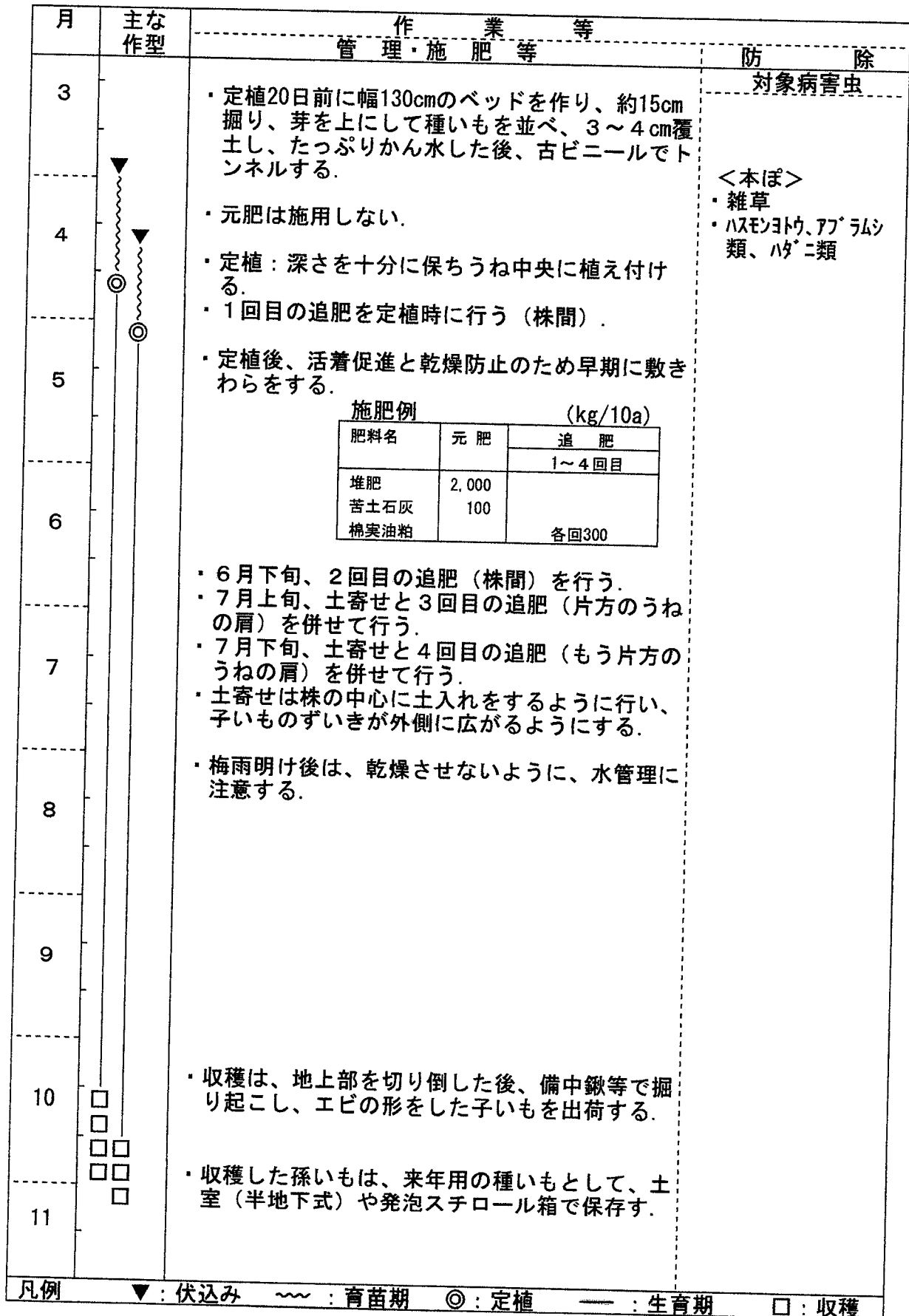
えだまめ

- 1 品種：①サツロミどり、②えぞみどり、ユキムスメ、③たんくろう（黒えだまめ）など。
- 2 は種量：7～8ℓ/10a.
- 3 栽植密度：うね幅90cm、株間15cm、2条植 14,000株/10a（早熟）
うね幅90～120cm、株間20～25cm、2条植 6,000～10,000株/10a（露地）。

月	主な作型	作業等	
		管理・施肥等	防除
3	①②③ ◇○ ○ ◆ ∩◎	<ul style="list-style-type: none"> ・早熟栽培ではビニールハウス内に小型トンネルを設けるか、苗床で小型トンネルを設けて育苗する。 ・無肥料で排水の良い苗床に4～5cmに条まきする。 ・発芽後は日中10～25℃、夜間は10℃以下にならないようにトンネルをかけ、換気並びに保温に努める。 	対象病害虫 <育苗期> ・ハダニ類、アブラムシ類等 <本ぼ> ・ハモンヨウ、シロイモヨウ、マメシクイガ、カメシ類、ハダニ類 ・べと病、ウイルス病、斑点細菌病、茎えき病、黒根腐病
4	○ ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・過湿や酸性土壤に弱いため、排水の良い田を選び、早めに苦土石灰を施用し、pH 6.5前後に矯正する。 	
5	U ○	また、パーク堆肥などを2t施用する。 ・連作は避ける。 ・元肥を入れ、耕うん、うね立てを行う。早熟栽培ではうね立て、元肥の施用が終われば早めにトンネルし、地温を高めておく。	
6	□ □		
7	□ □	<ul style="list-style-type: none"> ・早熟栽培では子葉が開き初生葉が見え始める頃に、苗を1本植えする。直播きの場合は、1穴2～3粒を2cmの深さには種する。 	
8	□ □	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥は開花初期に施用し、除草、土寄せを行う。 	
9		<ul style="list-style-type: none"> ・過熟になると品質及び販売単価が下がるので株際に少し未熟なさやがある時から、収穫を始め、同じは種期の作型のものは4～5日で収穫を終えるようにする。 	
凡例		○：は種 ~~~：育苗期 ◎：定植 —：生育期 □：収穫 ◇：ハウス被覆開始 ◆：ハウス被覆終了 ∩：トンネル被覆開始 U：トンネル被覆終了	

えびいも

- 1 品種：^{とうのいも}唐芋.
- 2 種いも量：約1,300個/10a. 前年収穫した貯蔵中の孫いもを使用.
- 3 栽植密度：うね幅140cm、株間70cm、1条、約1,000株/10a.



オクラ

- 1 品種：アーリーファイブ、グリーンロケット。
- 2 は種量：2～3g/10a。
- 3 栽植密度：うね幅90cm、株間35cm、約3,200株/10a。

月	主な作型	作業等		
		管理・施肥等	防除	
4	○	<ul style="list-style-type: none"> ・元肥施用、耕うん・整地。 ・は種は、1穴3～5粒まきとし、敷きわらを行う。 	対象病害虫 <本ぼ>	
5	○	<ul style="list-style-type: none"> ・本葉3～4枚の頃、1株2～3本となるよう間引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・アブラムシ類、フタトガリコヤガ、ワタノメイガ、コナジラミ類、カメムシ類、ヨトウムシ類等 ・苗立枯病(は種低温期)、灰色かび病 	
6	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の追肥は、開花してから、行う。それ以降は、草勢に応じ、3回程度に分けて行う。 		
7	□	<ul style="list-style-type: none"> ・英長5～6cmで収穫する。収穫が遅れないよう注意する。 ・収穫の後、着果節位の下位に葉3～4枚を残して、それより下葉を摘葉し、通風をよくする。ただし、草勢の弱い場合は摘葉を控える。 		
8	□	<ul style="list-style-type: none"> ・種子は一昼夜水に漬けておくと、発芽がよい。 ・収穫が遅れると、莢が硬くなり、商品価値がなくなる。特に収穫最盛期の8月は、伸長が早いので注意する。 		
9	□	<ul style="list-style-type: none"> ・多肥になると過繁茂となり、着蕾が悪く、落花しやすくなるので注意する。 ・過湿を嫌うため、定期的なかん水は必要ないが夏期の高温、乾燥は注意する。 		
凡例		○：は種	—：生育期	□：収穫

肥料名	元肥	追肥	
		3回程度に分けて	
堆肥	2,000		
苦土石灰	80		
ようりん	20		
普通化成 (8-8-8)	150		
高度化成 (14-8-10)		60	

かぶ

1 品種：耐病ひかり、聖護院大丸かぶ、天王寺かぶなど。

2 は種量：5 dℓ/10a.

3 栽植密度：

小かぶ；うね幅80~90cm、株間5cm、条間35~40cm、約10,000株/10a.

中・大かぶ；うね幅100~120cm、株間20~30cm、条間35~40cm、5,000~8,000株/10a.

月	主な作型	作業等													
		管理・施肥等	防除												
3	○	<ul style="list-style-type: none"> 元肥施用、耕うん整地。 10a当たり5 dℓは種する。 手押し型は種機（ごんべえ）などにより、は種する（2条まき）。 	対象病害虫 <本ぼ>												
4	○	<ul style="list-style-type: none"> 小かぶ栽培では本葉3~4枚の頃、 中・大かぶ栽培では本葉2~3枚のとき1回目の間引きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 雑草 キスジノミハムシ、ヨトウムシ、アオムシ、アブラムシ ウイルス病、根こぶ病、軟腐病 白さび病 												
5	□	施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> <th>追肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配合肥料 (7-8-6)</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有機入り化成 (9-6-6)</td> <td></td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥	苦土石灰	100		配合肥料 (7-8-6)	100		有機入り化成 (9-6-6)		80
肥料名	元肥	追肥													
苦土石灰	100														
配合肥料 (7-8-6)	100														
有機入り化成 (9-6-6)		80													
6	□	<ul style="list-style-type: none"> 本葉6~7枚のとき2回目の間引きをする。その時追肥をし、培土する。 													
7	□														
8	○	<ul style="list-style-type: none"> 中・大かぶ栽培では必ず根部へ軽く土寄せを行う（天王寺かぶは変形を防ぐため、土寄せしない）。 乾燥しないように、かん水を行う。 													
9	○	<ul style="list-style-type: none"> 遅れないよう収穫する。遅れると裂球の原因などになる。 													
10	□														
11	□														
12	□														
凡例		○：は種	—：生育期	□：収穫											

かぼちゃ

- 1 品種：えびす、雪化粧（西洋種でほくほく感が好まれる）。
勝間（こつま）なんきん（大阪府原産の日本かぼちゃ）。
- 2 は種量：5dℓ/10a。
- 3 栽植密度：うね幅2~3m、株間1m 約500株/10a。

月	主な作型	作業等																							
		管理・施肥等	防除																						
3		<ul style="list-style-type: none"> ・直まきでは3~5粒をまき、ホットキャップをかぶせて発芽を促進する。 ・移植栽培では12cmポットに2粒ずつまき、本葉2~3枚時に1本に間引く。 ・本葉4枚程度（30~35日）が定植適期である。 	対象病害虫 <育苗期> ・アブラムシ類等 <本ぼ> ・雑草 ・アブラムシ類、ウリハムシ、ハダニ類等 ・うどんこ病等																						
4		施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>60</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>菜種油粕 (5-2-1)</td> <td>100</td> <td>80</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>化成肥料 (8-8-8)</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2000			苦土石灰	60			菜種油粕 (5-2-1)	100	80	80	化成肥料 (8-8-8)	40	40	40	
肥料名		元肥			追肥																				
			1回目	2回目																					
堆肥		2000																							
苦土石灰		60																							
菜種油粕 (5-2-1)		100	80	80																					
化成肥料 (8-8-8)		40	40	40																					
5	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後、5月中旬頃まではホットキャップをかぶせて、保温する（直まきでも同様）。 																								
6	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥は第1回目を雌花の開花前に中耕をかねて行い、第2回目は1番果が80%ほど着果した頃、つるの先端の位置に施す。 ・整枝は、親づると子づる合わせて2~3本を伸ばし、つるが重ならないようにする。 																								
7	<ul style="list-style-type: none"> ・午前10時頃までに雄花の花粉を雌花の柱頭につけて人工授粉する。 ・果実が肥大してきたら、奇形防止のため玉直し（果実の向きを変えること）をし、果実の底にパットなどを敷く。 																								
8	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫時期の目安は、果梗がコルク化した頃。 																								
凡例		○：は種 ~~~~：育苗期 ◎：定植 —：生育期 □：収穫 ◇：ハウス保温開始 ◆：ハウス保温終了 ∧：キャップ被覆開始 V：キャップ被覆終了																							

カリフラワー

- 品種：①スノークラウン（年内どり）、②スノードレス（1、2月どり）、③スノーマーチ（2、3月どり）など。
- は種量：普通育苗では60～80ml/10a、セル成型苗育苗では20ml/10a。
- 栽植密度：うね幅75cm、株間40cm、2条植、約3,500株/10a（早生種ではやや密植とする）。

月	主な作型	作業等																											
		管理・施肥等	防除																										
7	○	<ul style="list-style-type: none"> 普通育苗では幅1.2m、高さ10cm位のまき床を作る（本ほ1a当たり約1m²を準備する）。 床面に5～6cm間隔に浅い条をつけ、種をまき、軽く覆土して敷きわらをし、十分かん水する。 暑さを防ぐため寒冷紗で日覆をする。2、3日で発芽するので早めに敷きわらを除き、密生部分を間引く。 過乾燥、過湿にならないよう朝にかん水を行う。 	対象病害虫 <育苗期> ・ハマダラメカ、コガ、ヨウムシ類、アブラムシ類 ・苗立枯病、																										
8	○	<ul style="list-style-type: none"> 移植床を本ほ10a当たり60～80m²準備する。移植10日前に1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰120g、ようりん50g、普通化成60～80gを施用し耕うんしておく。 本葉2～3枚の時に、12～15cmの間隔に移植し十分かん水し、まき床に準じて日覆する。 とろ箱にまいて、本葉2～3枚時に3号ポットなどに鉢上したり、セル育苗してもよい。 かん水量が多すぎたり、日中にかん水したりすると苗立ち枯れや徒長を招くので注意する。 	<本ほ> ・雑草 ・コガ、ヨウムシ、アブラムシ、タマキソウガ、ヨトウムシ類 ・根こぶ病、白斑病、黒斑病、べと病、軟腐病																										
9	◎	<ul style="list-style-type: none"> 定植の10日前に元肥施用、耕うん整地を行う。 定植は移植後20日位の本葉6～8枚の苗を用いる。 セル育苗の場合の生育期間は、20日を目安とする。 																											
10	◎	施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回</th> <th>2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (12-8-10)</td> <td>140</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (14-8-10)</td> <td></td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回	2回	堆肥	2000			苦土石灰	100			ようりん	20			高度化成 (12-8-10)	140			高度化成 (14-8-10)		40	40	
肥料名	元肥	追肥																											
		1回	2回																										
堆肥	2000																												
苦土石灰	100																												
ようりん	20																												
高度化成 (12-8-10)	140																												
高度化成 (14-8-10)		40	40																										
11	□	<ul style="list-style-type: none"> 早生種は総量の1/2を、晩生種では1/3を元肥に施し、残りを2、3回に分けて追肥する（1回目10月頃、2回目1月頃、最終の追肥は花蕾が見え始めた頃）。 早生種では初期生育を旺盛にし、外葉を大きく作ると良品生産につながる。 第1回目の追肥時に中耕除草も併せて行う。 																											
12	□	<ul style="list-style-type: none"> 生育盛期に乾燥が続くと外葉が巻き込み、花蕾の肥大も鈍り、ちやぼ玉の原因となるため、水分不足とならないようかん水する。 																											
1	□	<ul style="list-style-type: none"> 花蕾に光線が当たると黄色く変色するので、花蕾が見え始めたら、心葉の先を結束し、光線をあてないようにする。 花蕾周辺にすき間が出始めた頃が収穫適期。 																											
2	□																												
3	□																												

凡例 ○：は種 ~~~~：育苗期 ◎：定植 —：生育期 □：収穫

キャベツ

- 1 品種：松波、YR泰山、彩音、彩ひかり、北ひかりなど。
- 2 は種量：普通育苗で60～80ml/10a、セル成型苗育苗では40ml/10a。
- 3 栽植密度：うね幅120cm、株間35cm、2条植、約4,700株/10a。

月	主な 作型	作 業 等																											
		管 理・施 肥 等	防 除																										
7	①②③ ○	<ul style="list-style-type: none"> 普通育苗では、本播10a当たり苗床50㎡を準備し、は種10日前に苦土石灰5kg、普通化成8kgを施用し、耕うんしておく。 	対象病害虫 <育苗期>																										
8	○ ○ ◎	<ul style="list-style-type: none"> は種は品種のは種適期を見極めて行う。 本葉2枚頃株間5cmになるよう間引く。 元肥施用、耕うん整地。 	<ul style="list-style-type: none"> ハイダラメイガ、コガ、ヨウムシ類、アムシ、アブラムシ類等 																										
9	◎ ○ ◎	<ul style="list-style-type: none"> セル成型苗の育苗期間は22日を目安とする。 定植は本葉5～6枚時(は種後30～35日後)。 	<本播>																										
10	◎ ◎ ◎	施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追 肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (16-10-14)</td> <td>150</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td></td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追 肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	100			ようりん	20			高度化成 (16-10-14)	150			普通化成 (8-8-8)		100	100	<ul style="list-style-type: none"> コガ、ヨウムシ類、アムシ、アブラムシ類、根こぶ病、黒腐病、べと病、軟腐病、菌核病、萎黄病
肥料名	元肥	追 肥																											
		1回目	2回目																										
堆肥	2,000																												
苦土石灰	100																												
ようりん	20																												
高度化成 (16-10-14)	150																												
普通化成 (8-8-8)		100	100																										
11	□ □ □	<ul style="list-style-type: none"> 追肥1回目 定植2週間前後。 追肥2回目 定植25日後。 																											
12	□ □ □	<ul style="list-style-type: none"> 結球を始める前に追肥を終えるよう注意する。 																											
1	□ □ □	<ul style="list-style-type: none"> 生育前半に肥効切れを起こすと結球不良となる 追肥後軽く土寄せをする。 乾燥の激しい時はうね間かん水する。 																											
2	□ □ □																												
3	□ □																												
4	□	①夏まき冬どり:松波、YR泰山、彩ひかりなど ②晩夏まき冬どり:松波、彩ひかりなど ③秋まき春どり:北ひかり、青空など																											
5																													
凡例 ○ : は種 ~~~~~ : 育苗期 ◎ : 定植 — : 生育期 □ : 収穫																													

結球レタス

- 1 品種：
 - 8月は種（晩夏まき）；サトス、カザー、極早生シコ。
 - 3-4月は種（春まき初夏取り）；カザー、極早生シコ。
 - 9-10月は種（秋まきトシ）；グレイトレイクス54、シコ、カザー。
- 2 は種量：普通育苗で40~60ml/10a、セル成型育苗では30ml/10a。
- 3 栽植密度：うね幅120cm、株間25~30cm、条間40cm、2条植、約5,500~6,600株/10a。

月	主な作型	作業等																			
		管理・施肥等	防除																		
7	839 月 ま410	・育苗 種子は栽培時期にあった品種を選ぶ。 種子は浅い箱にすじまきする。すじは、7~8cm間隔で、種子間は5~8mm間隔にまく。	対象病害虫																		
8	き月月 ○まま ○きき	覆土は、種が見えない程度に軽くかける。 本葉1枚の頃、葉が触れ合わない程度に間引く。																			
9	〇 ◎ ○	・植えかえ（移植床へ） 移植床として、本ぼ10a当たり約60~70㎡を準備し、1㎡当たり堆肥2kg、苦土石灰を80g、普通化成を50~70g程度施用し、耕うんする。	<本ぼ> ・雑草																		
10	□ □ □	本葉2~3枚程度で、苗床又は9cmポットに移植する。苗床では、苗間隔9~10cmの方形に植え付ける。	・ヨトウ、カガ、ハダカ、アブラムシ類など																		
11	□	・定植の14日前に、10a当たり堆肥2,000kg、苦土石灰80kg、50~70kg程度の普通肥料を施用し耕うん、うね立てをする。	・べと病、軟腐病 ビクバイン病など																		
12		・定植 本葉4~5枚時、定植後十分かん水する。																			
1	□ □ □	黒ポリマルチに穴をあけ、植え付けるのもよい（高温時は、不要）。																			
2	□ □ □ U □	施肥例（年内取り）（kg/10a）																			
3	□ □ □ □ U □	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>120</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	100			普通化成 (8-8-8)	120	60	60	
肥料名	元肥	追肥																			
		1回目	2回目																		
堆肥	2,000																				
苦土石灰	100																				
普通化成 (8-8-8)	120	60	60																		
4	□ □ □ □ U □	年内取り：N=20kg、P=20~25kg、K=20~25kg 厳寒期取り：N=30kg、P=25~30kg、K=25~30kg 春取り：N=25kg、P=18~20kg、K=20~25kg																			
5	□ □ □ □ U □	・追肥を結球始め頃までにする。 ・厳寒期取りでは、防寒のためトシ被覆する（平均気温が、8~10度の頃）。																			
6	□ □ □ □ U □	・収穫：結球した頭部を軽く押して、固く感じる頃が適期。																			
凡例	○：は種 ~~~~：育苗期 ◎：定植 ———：生育期 □：収穫 □：トンネル被覆開始 U：トンネル被覆終了																				

こまつな

- 1 品種：早生種；みすぎ、さおり、楽天。 中生種；浜美2号。
- 2 は種量：1.5～2ℓ/10a。
- 3 栽植密度：うね幅80～90cm、うね全面ばらまき又は条間20cmの条まき。

月	主な作型	作 業 等		防 除														
		管 理・施 肥 等																
1		<ul style="list-style-type: none"> ・品種には、早生・中生・晩生種と大別して3種類ある。初夏から晩秋までは早生種を、秋冬期は、中・晩生種を使う。 		対象病害虫 <本ぼ> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・コナガ、アオムシ、アブラムシ類、ハモグリバエ類 ・萎黄病、白さび病、炭そ病 														
2		夏期施肥例 (kg/10a) 秋冬施肥例 (kg/10a)																
3		<table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元 肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名		元 肥	苦土石灰	100	普通化成 (8-8-8)	100	<table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元 肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乾燥牛糞</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元 肥	乾燥牛糞	2,000	苦土石灰	100	普通化成 (8-8-8)	100
肥料名		元 肥																
苦土石灰		100																
普通化成 (8-8-8)		100																
肥料名		元 肥																
乾燥牛糞		2,000																
苦土石灰		100																
普通化成 (8-8-8)		100																
4		<ul style="list-style-type: none"> ・排水の良い畑選ぶ。は種前に苦土石灰を100kg/10aと堆肥を施し、80～90cmの幅でうね立てする。 																
5		<ul style="list-style-type: none"> ・夏期の高温期の栽培では、元肥として成分含有率の低い普通化成を、は種7～10日前にうね全面にむらなくすき込む。 																
6	<ul style="list-style-type: none"> ・秋冬期栽培では、乾燥牛糞を1～2t/10a、普通化成を元肥として施用する。生育期間が短いのでほとんど追肥の必要はないが、肥切れが起こったときなどは、液肥の500倍を施用する。 																	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・うね面全ばらまき、又は約20cm間隔に浅い溝を切り条まきする。 																	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・は種後はたっぷりかん水し、発芽を齊一にして、均一に生育させる。 																	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期の乾燥しやすい時期は、覆土した上を白の寒冷紗等で覆い、発芽後取り除く。 																	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽後、子葉が開き本葉が出始めた頃、密生部や草勢の劣る株を間引き4～5cm間隔にする。 																	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・間引きが遅くなると、根が張ってくるため間引いた後の株が傷む。 																	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・畑が乾燥する場合にかん水を怠ると品質が悪くなるので、十分かん水する。夏期は、朝夕2回かん水し、特に乾燥の激しい時には、夜間にうね間かん水して、うね全体に水分が十分いきわたるようにする。 																	
凡例	○：は種 —：生育期 □：収穫 ∩：トンネル被覆開始 U：トンネル被覆終了																	

さつまいも

- 1 品種：ベニアズマ、なると金時、高系14号など。
- 2 は種量：育苗用種いも70~80kg/10a。購入苗を利用するが多い。
- 3 栽植密度：うね幅80~90cm、株間30~35cm、1条植、約3,500株/10a。

月	主な作型	作業等									
		管理・施肥等	防除								
3		<p>〈定植準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿し苗の10~15日前に元肥を全面に施し、できるだけ高うねにする。 ・早どり、多収をねらう場合は、黒マルチ（ポリフィルムマルチ）でうね全面をマルチングしておく。 	<p>対象病害虫</p> <p>〈本ぼ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コガネムシ類、ハスモンヨトウ、イモコガ 								
4		<p>〈定植〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本葉8~9枚、長さ約25cmの苗をマルチ栽培ではマルチの上部を切り、斜め挿しする。 ・露地栽培では水平に浅く挿す。コガネムシ類幼虫の被害が激しいほ場では薬剤（粒剤）等を施用する。 									
5		<p>施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>PK肥料 (0-20-20)</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>配合肥料 (9-7-8)</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	堆肥	2,000	PK肥料 (0-20-20)	50	配合肥料 (9-7-8)	40	
肥料名		元肥									
堆肥		2,000									
PK肥料 (0-20-20)		50									
配合肥料 (9-7-8)		40									
6											
7											
8											
9		<p>〈収穫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月以降いもの太りを見て収穫する。 ・10月中に収穫を終える。掘り遅れるといものは太るが食味が劣り、貯蔵性も落ちる。 									
10	<p>〈種いもの貯蔵〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴天日に掘り取った無傷のいもを温度12~15℃、湿度85~90%で貯蔵する。 										
11											
凡例		◎：定植	—：生育期	□：収穫							

さやいんげん (つるあり)

- 1 品種：黒種衣笠、モロッコなど。
- 2 は種量：6ℓ/10a
- 3 栽植密度：うね幅150cm、株間40cm、条間70cm、2条、3,300株/10a。

月	主な作型	作業等																															
		管理・施肥等	防除																														
4		<ul style="list-style-type: none"> ・連作を避け、地力をつけるため堆肥を必ず施し深めに耕起しておく。 ・は種の1週間前に元肥施用、耕うん整地する。 ・は種は1カ所に3粒まく。 ・本葉3枚程度の時に地際で切り取って間引き、1本にする。 ・草丈が20cm位になると180cm位に合掌式に支柱を立て、収穫しやすさを考え150cmくらいまでの高さにきゅうりネット等を張る。そしてつるを誘引する。 ・同時に乾燥防止のためシルバーマルチを敷くか敷きわらをする。 	対象病害虫 <本ぼ> ・雑草 ・アブラムシ類、ミミキイロアザミマ、ハダニ類 ・炭そ病、さび病、うどんこ病																														
5		<ul style="list-style-type: none"> ・追肥1回目 さやの肥大が順調に進むように、第1花の花弁が落下し、さやがふくらみ始めた頃。 																															
6		<ul style="list-style-type: none"> ・追肥2回目 収穫開始時。 																															
7		<ul style="list-style-type: none"> ・収穫が遅れると種子が固くなり、さやの表面がごつごつするので、早めの収穫を心掛ける。 																															
8		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>施肥例 (kg/10a)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>棉実油粕</td> <td>120</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>硫酸加里</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィッシュボーン</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	100			棉実油粕	120			硫酸加里	10			フィッシュボーン	20			普通化成 (8-8-8)	40	20	20
肥料名		元肥	追肥																														
			1回目	2回目																													
堆肥		2,000																															
苦土石灰		100																															
棉実油粕		120																															
硫酸加里	10																																
フィッシュボーン	20																																
普通化成 (8-8-8)	40	20	20																														
9																																	
10																																	
凡例	○：は種 —：生育期 □：収穫																																

さやいんげん（つるなし）

- 1 品種：初みどり2号、つるなしモロッコなど。
- 2 は種量：8ℓ/10a.
- 3 栽植密度：うね幅150cm、株間30cm、条間70cm、2条、4,400株/10a.

月	主な作型	作業等																																			
		管理・施肥等	防除																																		
3		<ul style="list-style-type: none"> ・連作を避け、地力をつけるため堆肥を必ず施し深めに耕起しておく。 ・は種の1週間前に元肥施用、耕うん整地する。 ・は種は1カ所に3粒まく。 ・本葉3枚程度の時に地際で切り取って間引き、1株に2本残す。 ・草丈が20cm位になったときに、倒伏防止のため支柱を立てる。 ・同時に乾燥防止のためシルバーマルチを敷くか、敷きわらをする。 	対象病害虫 <本ぼ> ・雑草 ・アブラムシ類、ミミキイロザミマ、ハダニ類 ・炭そ病、さび病、うどんこ病																																		
4		<ul style="list-style-type: none"> ・追肥1回目 さやの肥大が順調に進むように、第1花の花弁が落下し、さやがふくらみ始めた頃。 																																			
5		<ul style="list-style-type: none"> ・追肥2回目 収穫開始時。 																																			
6		<ul style="list-style-type: none"> ・収穫が遅れると種子が固くなり、さやの表面がごつごつするので、早めの収穫を心掛ける。 																																			
7		<p style="text-align: center;">施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>棉実油粕</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>硫酸加里</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィッシュボーン</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>(8-8-8)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	100			棉実油粕	80			硫酸加里	10			フィッシュボーン	20			普通化成	40	20	20	(8-8-8)				
肥料名		元肥			追肥																																
			1回目	2回目																																	
堆肥		2,000																																			
苦土石灰		100																																			
棉実油粕		80																																			
硫酸加里	10																																				
フィッシュボーン	20																																				
普通化成	40	20	20																																		
(8-8-8)																																					
8																																					
9																																					
10																																					
凡例	○：は種 —：生育期 □：収穫 ∩：トンネル被覆開始 U：トンネル被覆終了																																				

しゅんぎく (きくな)

- 1 品種：大葉種、中葉種、小葉種があるが中葉系の株張り品種が主力。
大阪中葉新菊M（春）、冬の精（秋～冬）。
- 2 は種量：3～4g/10a.
- 3 栽植密度：うね幅60cm、条間15cm、条まき。

月	主な作型	作業等										
		管理・施肥等	防除									
2			対象病害虫									
3	○	<ul style="list-style-type: none"> ・水はけの悪い土では、べと病が出やすく生育が劣るので、排水がよいよう高うねを立てる。 ・は種 	<本ぼ> ・アブラムシ類、マメハモグリバエ、ヨトウムシ類 ・べと病、たんそ病									
4	—	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽には光が必要なので、覆土は薄くする。 ・は種後は、高温乾燥と雨の害を避けるため、寒冷紗などでうねを覆い、発芽すると直ちに取除く。 										
5	□ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・本葉が出始めたころ、株間5cmになるよう間引く。 										
6	□ □	施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> <th>追肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配合肥料 (8-8-8)</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥	苦土石灰	150		配合肥料 (8-8-8)	100	100
肥料名	元肥	追肥										
苦土石灰	150											
配合肥料 (8-8-8)	100	100										
7												
8	○	<ul style="list-style-type: none"> ・高温時には石灰欠乏が出やすいので、石灰質資材を十分量投入する。 										
9	—	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥は、本葉2～3枚の頃、うねの上に筋を切って施用する。 										
10	○ □ □	<ul style="list-style-type: none"> ・低温時は生育期間が長くなるので、施肥量を増やす。 										
11	—	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 草丈20cmくらいから収穫する。 										
12	□ □ □											
凡例		○：は種	—：生育期	□：収穫								

じねんじょ

- 1 品種：じねんじょ（品種未成立）。
- 2 種いも量：3,500本/10a.
- 3 うね幅：うね幅120～130cm、株間25～30cm、約2,700～3,000株/10a.

月	主な作型	作業等																																		
		管理・施肥等	防除																																	
4	◎ □ □ □ □ □ □	<ul style="list-style-type: none"> ・やまいもには、中国原産の「やまいも」と日本原産で山野に自生する「じねんじょ」があり、じねんじょについて記載する。 ・種いもにはむかごを1年間かけて養成した一年種と切りいもを利用する方法があるが、一年種を購入するとよい。 ・センチュウ類の被害が多くなるので連作しない。 ・12～3月に排水良好な畑を選び、堆肥を施用しておく。 	対象病害虫 <本ぼ> ・雑草 ・カビシ類、任ハシ類、バグニ類 アブラムシ類 ・炭そ病、葉洗病																																	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・山の地表下1～1.5m位の無菌、無肥料の赤土をパイプ1本当たり4kgつめる。 																																		
6		<ul style="list-style-type: none"> ・うねの中央部に深さ40～50cm、幅20～30cmの溝を掘り、約15度の傾斜をもたせパイプを埋め込む。 ・パイプの受部の上に長さ30cmの案内棒を立て、案内棒の上部10cmを残して覆土する。 																																		
7		<ul style="list-style-type: none"> ・うね長10mごとに排水溝を掘る。深さはパイプを埋めこんだ一番低い所よりさらに20～30cm深くする。 ・苗を案内棒に添わせて植え込み、その上にさらに5cm位覆土する。覆土した上をもみがら、切りわら等で覆う。 																																		
8		<ul style="list-style-type: none"> ・定植後、定植位置から20cm程度離れたうね全面に元肥を施用する。 ・1株に1本長さ3mの支柱を合掌に組み、つるを誘引する。 ・組んだ支柱の上部にネットを張り、つるが垂れ下がらず、受光がよくなるようにする。 ・定植後、6～10月に1月1回位追肥する。8～9月には、これに加里分を加える。 																																		
9		<ul style="list-style-type: none"> ・7月下旬～10月上旬晴天の続く時はかん水する。 																																		
10		<p style="text-align: center;">施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="5">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>3回目</th> <th>4回目</th> <th>5回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>4,000</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1B化成S1号</td> <td>60</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>硫酸加里</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥					1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	堆肥	4,000						1B化成S1号	60	30	30	30	30	30	硫酸加里				20			
肥料名		元肥			追肥																															
			1回目	2回目	3回目	4回目	5回目																													
堆肥		4,000																																		
1B化成S1号		60	30	30	30	30	30																													
硫酸加里					20																															
11	<ul style="list-style-type: none"> ・11月下旬になり茎葉が完全に黄化してから収穫する。 																																			
12																																				
凡例		◎：定植	—：生育期	□：収穫																																

すいか

- 1 品種：甘泉、ワールド神武、縞王など。 小玉品種も人気がある。
- 2 は種量：購入苗を使用。
- 3 栽植密度：うね幅3m 株間100cm、330株/10a。

月	主な作 型	作 業 等													
		管 理・施 肥 等	防 除												
5	Λ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・連作を避ける。接ぎ木苗を使用しない場合はウリ科作物を5～6年作付けしていないほ場を選ぶ。 ・接ぎ木苗を定植する場合は、接ぎ木部が地面下にならないようにする。 	対象病害虫 <ul style="list-style-type: none"> ・ウリハムシ、アブラムシ類、ハダニ類、タネバエ 												
	Λ◎														
6	V V	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗約30日頃が定植適期。定植3～4日前に、本葉4～5枚残して親づるを摘心する。 ・生育初期に子づる4～5本仕立てとする。 ・子づるが1mほど伸びた頃に敷きわらをする。 ・1回目の追肥は敷きわらをする前後 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭そ病、えき病 												
	V V														
7	□ □	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の追肥は着果した頃に施用する。 ・人工授粉は午前10時頃までにする。 ・着果はできるだけ20節以降にさせる。15節までに着果したものは摘果する。1株で4～5果着果させる。 	施肥例 (kg/10a) <table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> <th>追肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有機化成 (7-6-7)</td> <td>100</td> <td>80×2</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥	堆肥	2,000		苦土石灰	100		有機化成 (7-6-7)	100	80×2
	肥料名			元肥	追肥										
堆肥	2,000														
苦土石灰	100														
有機化成 (7-6-7)	100	80×2													
□ □															
8	□ □	<ul style="list-style-type: none"> ・果実の直径15cmの頃、奇形防止のため玉直し（果実を正常に据える）をする。 ・開花後40～45日くらいで収穫できる。 													
	□ □														
凡例 ◎：定植 —：生育期 □：収穫 Λ：キャップ被覆開始 V：キャップ被覆終了															

スイートコーン

- 1 品種：ピーターコーン（パイカラー種）、キャンペラ（82、90）。
- 2 は種量：2～5ℓ/10a。
- 3 栽植密度：うね幅150cm、株間30cm、2条千鳥、条間50cm 約4,400株/10a。

月	主な作型	作業等																											
		管理・施肥等	防除																										
3		<ul style="list-style-type: none"> ・トンネルやマルチを利用すれば、3月中旬から5月中旬に種まきして、6月中旬から8月中旬にかけて収穫する栽培が可能。 ・生育期間は3月から4月の種まきでは100～105日、5月では90～95日くらいかかる。 ・3月まきではトンネルを利用し、本葉2～3枚になった頃から高温にならないよう換気をする（トンネルは3月中旬～4月中旬）。 	対象病害虫 <本ぼ> <ul style="list-style-type: none"> ・アワノメイガ、アブラムシ類、アワヨトウ 																										
4		施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>120</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>50</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>40</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td></td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	120			ようりん	50			普通化成 (8-8-8)	40			普通化成 (8-8-8)		30	30	
肥料名		元肥			追肥																								
			1回目	2回目																									
堆肥		2,000																											
苦土石灰		120																											
ようりん		50																											
普通化成 (8-8-8)		40																											
普通化成 (8-8-8)		30	30																										
5	<ul style="list-style-type: none"> ・元肥施用、うね立て（幅広の通路を確保）後、1穴に2～3粒、深さ2～3cmに種をまき、かん水する。 ・本葉5～6枚時に生育の良い株を1株残す。 ・追肥は30～40cmの頃、草勢を見ながら行う。 ・株元から出る分けつ枝は、除去しない（無除けつ栽培）。 																												
6	<ul style="list-style-type: none"> ・雌穂は1株に2～3本できるが、最上部の雌穂を1本残す。 ・小さいうちに取った雌穂はヤングコーンとして料理等に利用できる。 																												
7	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は、雌穂が出て3週間くらいで果粒が太るので、適期を見定め収穫する。 																												
8																													
凡例	○：は種 ～～～：育苗期 ◎：定植 —：生育期 □：収穫 n：トンネル被覆開始 U：トンネル被覆終了																												

ズッキーニ

- 1 品種：ダイナー 濃緑色に霜降りのまだら模様。つくりやすい。
オーラム 黄色の果皮が特徴。
- 2 は種量：約1,400粒/10a.
- 3 栽植密度：うね幅100cm、株間100cm 約1,000株/10a.

月	主な作型	作業等									
		管理・施肥等	防除								
5	○ ~~~~~ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・元肥主体の施肥。 ・は種 	対象病害虫 <育苗期> ・雑草 <本ぽ> ・雑草 ・アブラムシ類 ・モザイク病 ・収穫した切り口から菌が侵入して腐りやすくなるので、刃物で収穫								
		育苗の場合 条間6~9cmでは種後、3回移植し直す。 1回目：本葉1枚時、株間9cm 2回目：本葉3~4枚時、株間12cm 3回目：定植2週間前、株間15cm 直まきの場合 株間1mとし植穴をあけ、種を3粒まいて軽く覆土する。本葉が3~4枚になったら、良い苗を残して1本立ちにする。									
6	◎	施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>有機入化成 (8-8-8)</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	堆肥	1,000	苦土石灰	60	有機入化成 (8-8-8)	160	
肥料名	元肥										
堆肥	1,000										
苦土石灰	60										
有機入化成 (8-8-8)	160										
7	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □	<ul style="list-style-type: none"> ・本葉6~7枚時に株間1mに定植。 ・遅霜の恐れのあるときや、生育を促進する場合にはホットキャップ使用。 									
		<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 									
8	□ □	花ズッキーニは、花卉が開きかけたつぼみを収穫。 身の部分を食えるときは開花後4~5日で収穫。きゅうりより少し大きい150~200g、長さ20cm程度が収穫適期。果実の肥大が早いので収穫遅れにならないよう注意する。									
9											
凡例 ○：は種 ~~~~~：育苗期 ◎：定植 —：生育期 □：収穫											

そらまめ

- 1 品種：芭蕉成り1寸、河内1寸、仁徳一寸。
- 2 は種量：10～15ℓ/10a.
- 3 栽植密度：うね幅120cm、株間50cm、約1,600株/10a.

月	主な作型	作業等																				
		管理・施肥等	防除																			
10	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗床は本ぼ10a当たり10㎡を準備する。4号ポットでの育苗もできる。 ・ 種子はオハグロが横か斜め下になるように6cm×6cmには種し、覆土は2cm程度にする。 	対象病害虫 <育苗期> ・ アブラムシ類等																			
11	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発芽までは過湿に弱いのでコモをかけ、雨の多い時にはなみ板を浮きがけする。発芽後は取りはずし、寒冷紗をべたがけする。 ・ 植え傷みしないように本葉が2～3枚見えたら定植する。その際根を切らないように注意する。 	<本ぼ> ・ 雑草 ・ アブラムシ類(ウイルス病)、ハモグリバエ類 ・ 赤色斑点病、さび病、輪紋病																			
12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 連作を避け、4年以上そらまめを作付けていないほ場で、日当たりと水はけの良いところを選ぶ。水田では高うねにする。 ・ 酸性土壌を嫌うので、pH6くらいに矯正しておく。 																				
1		施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th>元肥</th> <th colspan="3">追肥</th> </tr> <tr> <th>定植時</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>3回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苦土石灰 高度化成 (15-15-150)</td> <td>80</td> <td>40</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>棉実油粕 NK化成 (17-0-17)</td> <td></td> <td></td> <td>120</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥			定植時	1回目	2回目	3回目	苦土石灰 高度化成 (15-15-150)	80	40			棉実油粕 NK化成 (17-0-17)			120	20	
肥料名	元肥	追肥																				
	定植時	1回目	2回目	3回目																		
苦土石灰 高度化成 (15-15-150)	80	40																				
棉実油粕 NK化成 (17-0-17)			120	20																		
2																						
3		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目の追肥は定植14日後、2回目は12月中旬、3回目は3月上旬の開花時に行う。 ・ 12月中旬に追肥のあと倒伏防止に土寄せをする。 ・ 株の中にも土を入れると光がよく当たりさやが着きやすくなる。 																				
4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 主枝を摘心せず放任し、枝の上部の花が咲き下部の実が太り出す頃、主枝、側枝の先端を摘芯し、倒伏防止と実の充実を図る。 ・ 開花期に乾燥すると莢のつきが悪くなるので乾燥の激しいときはうね間かん水する。 																				
5		<ul style="list-style-type: none"> ・ 開花後35～40日が収穫の目安となる。収穫適期はさやが十分に充実しやや下向きになり、縫合線が着色しさやに光沢がで、子実の色が緑から緑白色に変わった頃、何回かに分けて行う。 																				
6	□																					

凡例 ○：は種 ◎：定植 ～：育苗期 —：生育期 □：収穫

(なばな) (京なばな) 行4の田印 稲田町 改良したの

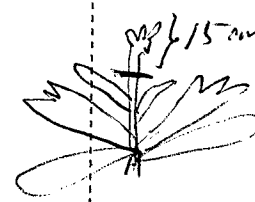

農薬を散布する場合、ラベルを

たねのさき

(非結球あぶらな科葉菜類) (コイナ 農作物は 畝草を除去 する時)

- 1 品種：早生種、中生種（在来種）
- 2 は種量：80mg/10a.
- 3 栽植密度：早生種、うね幅100cm、株間30cm、2条植、約6,500株/10a.
中生種 うね幅120~150cm、株間35cm、2条植、約4,000株/10a.

↓ (なばな類)

月	主な作型	作業等		防除																										
		管理・施肥等	追肥																											
8	早生種 ○	<table border="1"> <caption>施肥例 (kg/10a)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目~</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (12-8-10)</td> <td>120</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (14-8-10)</td> <td></td> <td>20</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目~	堆肥	2,000			苦土石灰	80			ようりん	20			高度化成 (12-8-10)	120			高度化成 (14-8-10)		20	60		<p>対象病害虫</p> <p><育苗期></p> <ul style="list-style-type: none"> コナガ、ヨトウムシ類、アオムシ、アブラムシ類等 <p><本ぽ></p> <ul style="list-style-type: none"> 雑草 コナガ、ヨトウムシ類、アオムシ、アブラムシ類等 白さび病、根こぶ病
					肥料名	元肥	追肥																							
1回目	2回目~																													
堆肥	2,000																													
苦土石灰	80																													
ようりん	20																													
高度化成 (12-8-10)	120																													
高度化成 (14-8-10)		20	60																											
9	○																													
10	□	<p>早生種（直まき栽培）</p> <ul style="list-style-type: none"> N → 14.4kg - 8.6 - 12kg N → 11.2kg 2条に浅いまき条を作り条まきし、軽く鋤で鎮圧後かん水する。 本葉1~2枚頃から生育に応じ間引きし、最終株間20cmにする。 1回目追肥は最終間引き後条間にする。 2回目は11月上旬にうねの両肩にする。 																												
11	□	<p>中生種（普通栽培）</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗床100㎡を準備し、は種10日前に苦土石灰10kg、普通化成15kgを施用して耕うんし1.2mのうねを立てる。 は種はばらまきする。(できると汁が少なくまく。) → すいまきにしても良い 本葉2枚頃までに株間5~10cmに間引く。 元肥施用して耕うん整地し、うねを立てる。 																												
12	□																													
1	□	<ul style="list-style-type: none"> 定植は本葉4~5枚時に千鳥植えする。 追肥1回目は定植10日後。 追肥2回目以降は出蕾後肥料切れしないように2~3回行う。 収穫1回目は蕾が15cm程度伸びたときに行い、2回目以降は下葉2枚残して行う。 		→ 茎が固くなる																										
2	□																													
3	□																													
4	□	<p>ほとんどの病害虫の発生が少い。</p> <p>移植が簡単(1回水やりで活着)</p> <p>(行かしていても根をさうす)</p>		<p>フケ物が本流であるがおえ物、おいもの、こぼら</p> <p>にがみがないのが特徴</p>																										

6月
↑
発芽率
98%以上
↓
2年目も
80%以上

凡例 ○ : は種 ~~~ : 育苗期 ◎ : 定植 — : 生育期 □ : 収穫

だいこん

- 1 品種：夏みの早生三号、耐病総太り、YRくらま、聖護院丸だいこん、田辺だいこん。
- 2 は種量：0.8～1ℓ/10a（田辺大根は1～1.5ℓ/10a）。
- 3 栽植密度：
 - （長だいこん）うね幅90～100cm、株間20～25cm、2条まき、8,000～10,000本/10a。
 - （丸だいこん）うね幅150cm、株間40～45cm、2条千鳥まき、3,300本/10a。

月	主な作型	作業等																				
		管理・施肥等	防除																			
8		<ul style="list-style-type: none"> ・条まきでは、うねに2本の浅い条を切り、種子を2～3cm間隔に、点まきは25～30cmの株間を千鳥にとり、1カ所2～3粒（田辺大根は4～5粒）は種する。 ・厚さ1cmほどの覆土をして平ぐわで軽く鎮圧する。 ・1回目の間引きは、子葉が展開してから5日頃行う。条まきでは4～5cm間隔に、点まきでは1カ所2～3本残すようにする。 ・2回目の間引きは、本葉4～5枚の頃、1本立て（株間25～30cm）にする。 ・8月下旬～9月上旬まきの作型では、軟腐病の発病を抑えるため、窒素分を控えめに施用する。 ・間引きが終わった都度、追肥と中耕をして株元に土寄せをする。 ・乾燥に弱いので、畑の乾燥状態を見定めて、かん水を行う。 	対象病害虫 <本ぽ> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・キスジノミハムシ、ヨトウムシ、アオムシ、アブラムシ類 ・ウイルス病、軟腐病、白さび病 																			
9																						
10																						
11			<p style="text-align: center;">施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>配合肥料 (7-8-6)</td> <td>150</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>有機入り 化成 (9-6-6)</td> <td></td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	苦土石灰	100			配合肥料 (7-8-6)	150			有機入り 化成 (9-6-6)		50	50	
肥料名		元肥	追肥																			
			1回目	2回目																		
苦土石灰		100																				
配合肥料 (7-8-6)		150																				
有機入り 化成 (9-6-6)			50	50																		
12			<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は遅れないよう行う。遅れるとス入りの原因にもなる。 																			
凡例		○：は種	◎：定植	—：生育期	□：収穫																	

だいず（黒大豆を含む）

- 1 品種：タマホマレ、その他にサチユタカなど（黒大豆は丹波黒など）。
- 2 は種量：4～5kg/10a（黒大豆は移植栽培で2kg、直まき栽培で3kg/10a）。
- 3 栽植密度：うね幅130cm、株間25cm、2条植、約6,000株/10a。
（黒大豆）：うね幅120～160cm、株間45cm、1条植、約1,400～1,800株/10a。

月	主な作型	作業等									
		管理・施肥等	防除								
6	○ ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・元肥施用、耕うん整地。 ・特に黒大豆では前作の残肥に注意する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>施肥例 (kg/10a)</caption> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>化成肥料(3-10-10)</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	堆肥	2,000	苦土石灰	100	化成肥料(3-10-10)	60	対象病害虫 <種子> ・紫斑病 <本田> ・カメムシ類、シロイチモジ、マダラメイガ、ハスモンヨトウ ・紫斑病
肥料名	元肥										
堆肥	2,000										
苦土石灰	100										
化成肥料(3-10-10)	60										
7		<ul style="list-style-type: none"> ・大豆の場合は紫斑病予防のために薬剤を種子粉衣する。 ・は種後は防鳥網を張り、発芽後は速やかにはずす。 ・育苗する場合は、は種後10日程度で定植する。子葉節（子葉の着いている節）まで埋め込む。 									
8		<ul style="list-style-type: none"> ・黒大豆は本葉7～8枚で摘心を行う。 ・定植後1ヶ月までに初生葉（子葉の次の葉）まで土寄せする。 ・開花後乾燥が続く場合はうね間かん水を行う。（2～3回） 									
9		<ul style="list-style-type: none"> ・8月初旬以降開花が始まるのでカメムシ類の防除を行う。特に8月の中旬以降には必ず行う。 									
10											
10	□ □ □ □	<ul style="list-style-type: none"> ・葉が黄化し始めたら収穫を行う。 ・収穫後の腐敗等を防ぐためには架がけを行った方がよい。 									

凡例 ○：は種 ◎：定植 ———：生育期 □：収穫

チンゲンサイ

- 1 品種：青帝、長陽、武帝など。
- 2 は種量：6～8 dℓ/10a.
- 3 栽植密度：うね幅120cm、株間15cm、3条まき、約16,000株/10a.

月	主な作型	作業等																											
		管理・施肥等	防除																										
4		<ul style="list-style-type: none"> ・元肥施用、耕うん整地。 ・は種は条まきとする（露地栽培の場合早春まきは抽たいに注意）。 ・本葉2枚頃から間引きを行い最終15cmの株間にする。 ・1回目の追肥は本葉4枚目頃に行う。 ・2回目（秋まき）の追肥は間引き終了後に行う。 	<p style="text-align: center;">防除</p> <p style="text-align: center;">対象病害虫</p> <p><本ぼ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・コナガ、ヨトウムシ、アオムシ、アブラムシ類、ナメクジ類 ・白さび病 																										
5		<ul style="list-style-type: none"> ・夏は施肥量を減らす。 																											
6		<p style="text-align: center;">施肥例（秋まき）（kg/10a）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (12-8-10)</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (14-8-10)</td> <td></td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	80			ようりん	20			高度化成 (12-8-10)	100			高度化成 (14-8-10)		40	40	
肥料名		元肥			追肥																								
			1回目	2回目																									
堆肥		2,000																											
苦土石灰		80																											
ようりん		20																											
高度化成 (12-8-10)		100																											
高度化成 (14-8-10)			40	40																									
7																													
8																													
9																													
10																													
11																													
12																													
<p>凡例 ○：は種 ◎：定植 —：生育期 □：収穫</p>																													

とうがん

- 1 品種：大丸 琉球.
- 2 は種量：1 dℓ/10 a.
- 3 栽植密度：うね幅1.5m、株間5 m、130本/10a（地這作り）.

月	主な作型	作業等																		
		管理・施肥等	防除																	
4	○ ~~~~~ ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗 砂床に伏せ込んで催芽する。子葉が開き始めたら、9 cmポットに移植する。 ・元肥施用、耕うん整地 草勢が強いため、肥えた土壌よりやややせた土壌がよい。連作は避ける。 	対象病害虫																	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・定植 は種後30~45日後、本葉2~3枚頃に定植する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>施肥例 (kg/10a)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>有機入化成 (8-8-8)</td> <td>80</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	100			有機入化成 (8-8-8)	80	40	40
肥料名	元肥	追肥																		
		1回目	2回目																	
堆肥	2,000																			
苦土石灰	100																			
有機入化成 (8-8-8)	80	40	40																	
6	□	<ul style="list-style-type: none"> ・整枝 本葉5~6葉で親づるを摘心し、草勢の強い、子づる3~4本を伸ばす。混み合った孫づるは摘除。 ・追肥 追肥は1番果が着果した頃、つるの先端近くに施す。 																		
7		<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 開花40~50日後。品種によっては果面が白い粉で覆われた頃。 小屋などで貯蔵すると12月まで貯蔵できる。 																		
8	□																			
9																				
凡例 ○：は種 ~~~~：育苗期 ◎：定植 ———：生育期 □：収穫																				

ながいも

- 1 品種：長芋群（長芋、一年芋、とっくり芋など）。
- 2 種いも量：600kg/10a.
- 3 うね幅：うね幅90cm、株間30cm、1条植、約3,700株/10a.

月	主な作型	作業等																																																							
		管理・施肥等	防除																																																						
4	◎	<ul style="list-style-type: none"> やまいもには、中国原産の「やまのいも」と日本原産で山野に自生する「じねんじょ」あり、やまのいもの中には大和芋群（塊形種）、長芋群（長形種）、いちよう芋群（扁形種）と3つの品種群に分かれており、長芋群について記載する。 	<p><本ぼ></p> <ul style="list-style-type: none"> 雑草 ネコセンチュウ、ヤマノイモガ、ハダニ類 炭そ病、葉洗病 																																																						
5		<ul style="list-style-type: none"> 12～3月に排水の良好な畑を選び、堆肥を施用しておく。 元肥は定植10日前に全層施用する。 いもを100～150gの大きさに分割したものを種いもとし、切ったいもの切口が白くなるまで乾燥させる。 																																																							
6		<ul style="list-style-type: none"> 他に、むかごから1～2年かけて種いもを養成する方法もある。 植え付け溝の耕土は80cm以上に深耕する。 定植は深さ10cmに植え付ける。 追肥は萌芽揃い頃から始め1回の施用量は少なく分施する。以降20日毎に施用する。 1個の種いもから1本仕立てる。他の芽はかきとる。 																																																							
7		<ul style="list-style-type: none"> 1本立て又は合掌づくりに支柱を立て、いものつるを誘引する。支柱の代わりにネットを使用してもよい。 干ばつに強いが、7月下旬～8月下旬の肥大期にかん水を励行する。過かん水しない。 																																																							
8		<p>施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="5">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>3回目</th> <th>4回目</th> <th>5回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>I B化成S I号</td> <td>150</td> <td></td> <td>50</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>粒状固形30号</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>燐硝安加里S604</td> <td></td> <td>20</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>硫酸加里</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥					1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	堆肥	2,000						苦土石灰	100						I B化成S I号	150		50				粒状固形30号				50	50	50	燐硝安加里S604		20	15	15	15	15	硫酸加里				20		
肥料名	元肥	追肥																																																							
		1回目		2回目	3回目	4回目	5回目																																																		
堆肥	2,000																																																								
苦土石灰	100																																																								
I B化成S I号	150			50																																																					
粒状固形30号					50	50	50																																																		
燐硝安加里S604		20		15	15	15	15																																																		
硫酸加里				20																																																					
9																																																									
10																																																									
11	□	<ul style="list-style-type: none"> 収穫は葉が黄変した時期（降霜ごろ）が目安。 地上部は枯れても、いもには影響ない。 																																																							
12	□																																																								
	□																																																								
1	□																																																								
	□																																																								
2	□																																																								
	□																																																								

凡例 ◎：定植 —：生育期 □：収穫

にんじん

- 1 品種：①黒田五寸（春まき）、②向陽二号、③長太り金時。
- 2 は種量：1～2ℓ/10a.
- 3 栽植密度：うね幅120cm、条間30cm、2条まき、10,000～16,000株/10a.

月	主な作型	作業等																			
		管理・施肥等	防除																		
	①②③		対象病虫害																		
4	○	<ul style="list-style-type: none"> ・水はけが良く、土づくりのできた栽培ほ場を選ぶ。 ・3年程度の連作は可能だが、土壤病害が発生しやすいのでできるだけ連作は避ける。 ・割れやふたまたの発生を防止するため、土はできるだけ細かく砕土する。 	<本ぼ> ・センチウ類、ネリムシ類、キケハ、ギソウワ類、アブラムシ類 ・黒葉枯病、根腐病、軟腐病、白絹病																		
6	□	施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> <th>追肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>40</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有機化成 (10-6-7)</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>60</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥	堆肥	2,000		苦土石灰	100		ようりん	40		有機化成 (10-6-7)	100		普通化成 (8-8-8)	60	80	
肥料名	元肥	追肥																			
堆肥	2,000																				
苦土石灰	100																				
ようりん	40																				
有機化成 (10-6-7)	100																				
普通化成 (8-8-8)	60	80																			
7	□																				
8	○																				
9	○	<ul style="list-style-type: none"> ・元肥施用、深耕後、高うねを立て、幅広のすじを切り、種まきし、種がかくれる程度に覆土する。 																			
10	○	<ul style="list-style-type: none"> ・覆土後、乾燥防止と雨にたたかれるのを防ぐため、まき溝に切りわらをおく。 ・間引きは2～3回行い、軽く中耕して土寄せを行う（最終間引き後株間10～15cm程度）。 																			
11	□	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥は最終間引き頃に（春まきでは6月中旬、夏まきでは9月下旬頃）行う。 																			
12	□	<ul style="list-style-type: none"> ・後半の肥効の効きすぎは根の肥大を悪くし、裂根の原因になるので注意する。 ・収穫は根が肥大したものから順次掘り取る。 																			
1	□	(金時にんじん)																			
2	□	<ul style="list-style-type: none"> ・金時にんじんは有毛種のため、まく前に手でよくもんで毛を落とし、2昼夜水に浸し、乾いた砂にまぶしてまくと、発芽が良い。 																			
凡例		○：は種	—：生育期																		
			□：収穫																		

にんにく

- 1 品種：巻岐早生、上海早生、佐賀大ニンニク、静岡在来など。
- 2 種球量（種球＝りん片）：22,000個／10a。
- 3 栽植密度：うね幅120cm、株間12cm、条間20cm、4条植、約27,000株／10a。

月	主な作型	作業等																							
		管理・施肥等	防除																						
8		<ul style="list-style-type: none"> ・ 植え付け14日前に、堆肥2,000kg、苦土石灰100kg、BMようりん40kg、普通化成150kgを全面に施用し、耕うんしておく。 	対象病虫害																						
9	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定植 りん片を1片ずつ丁寧にはずした後、深さ5cm程度に植え付ける。 	<本ぼ> ・ 雑草 ・ タネキバエ、スリップス類、蚜ニ ・ さび病、べと病 軟腐病、乾腐病 灰色かび病																						
10	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芽かき 草丈が15cmくらいに伸びたら、1株に2本以上芽が出ている株は強い芽を1本残し、他はかきとる。 																							
11																									
12		施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>BMようりん</td> <td>40</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>150</td> <td>75</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	100			BMようりん	40			普通化成 (8-8-8)	150	75	75
肥料名	元肥	追肥																							
		1回目		2回目																					
堆肥	2,000																								
苦土石灰	100																								
BMようりん	40																								
普通化成 (8-8-8)	150	75	75																						
1																									
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 追肥1回目：植え付け後約40日後。 ・ 追肥2回目：3月上旬。 																							
3		（多肥、収穫遅れは裂球が増える） <ul style="list-style-type: none"> ・ 玉の肥大をよくするため、蕾は摘み取る。 ・ 春のりん片肥大期には乾燥させない。但し、過湿は避ける。 																							
4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫 株全体の2分の1～3分の2くらいが黄色くなり、枯れた頃の晴天日に収穫する。 																							
5	□	収穫後はできるだけ早く乾燥させ、葉を切り取って、風通しの良い涼しい場所に束ね吊す。																							
6	□	収穫後、雨に会うと変色するので注意する。																							
凡例		◎：定植	—：生育期	□：収穫																					

はくさい

- 1 品種：黄ごころ75・85、優黄など黄芯品種の人気が高い。
- 2 は種量：普通育苗では40～60m²/10a、セル成型苗育苗では30m²/10a。
- 3 栽植密度：うね幅120cm、株間40cm、条間40cm、2条植、約4,100株/10a。

月	主な作型	作業等																											
		管理・施肥等	防除																										
8		<ul style="list-style-type: none"> ・普通育苗では、本ぼ10a当たり苗床50m²を準備し、は種10日前に苦土石灰5kg、普通化成3kgを施用し、耕うんしておく。 ・は種は10cm間隔に筋を切り、種をまき、軽く覆土する。セル成型苗育苗は、覆土を深めにし、発芽苗が転ばないようにする。 ・本葉2枚頃株間5cmになるよう間引く 	対象病害虫 <育苗期> ・ハイダラノメイガ、コガ、ヨウムシ類、アブラムシ類等 <本ぼ> ・雑草 ・コガ、ヨウムシ、アムシ、マナギンウバ ・根こぶ病、白斑病、黒斑病、べと病、軟腐病																										
9		<ul style="list-style-type: none"> ・セル成型苗の育苗期間は20日を目安とする。 																											
10		<ul style="list-style-type: none"> ・元肥施用、耕うん整地。 ・定植は本葉4～5枚時に行う。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>施肥例 (kg/10a)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成(12-8-10)</td> <td>180</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成(14-8-10)</td> <td></td> <td>40</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	80			ようりん	20			高度化成(12-8-10)	180			高度化成(14-8-10)		40	80
肥料名		元肥				追肥																							
				1回目	2回目																								
堆肥		2,000																											
苦土石灰		80																											
ようりん		20																											
高度化成(12-8-10)		180																											
高度化成(14-8-10)				40	80																								
11		<ul style="list-style-type: none"> ・追肥1回目：本葉6～7枚時。 ・追肥2回目：結球始め。 ・結球始めに肥料不足になると結球不良になる。 																											
12		<ul style="list-style-type: none"> ・結球終了後収穫までに間のある場合は、外葉で結球部を包み、寒害を防ぐ。 ・定植後、活着してからも激しい乾燥が続くとホウ素欠乏症、石灰欠乏症の発生が見られるので水分不足とならないようかん水する。 																											
1																													

凡例 ○：は種 ◎：定植 ～：育苗期 —：生育期 □：収穫

葉ごぼう（露地、ハウス）

- 1 品種：越前白茎を使い、年々、そのほ場から早熟性、良質の系統を選抜して行くことが望ましい。
- 2 は種量：露地、ハウス栽培とも5～6g/10a.
- 3 栽植密度：うね幅90cm、条間20cm、2条植、70,000～80,000株/10a.

月	主な作型	作業等																											
		管理・施肥等	防除																										
9	露地 ○	<p><本ぼ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・重い土性では、葉柄の色がさえ、香りの強いものができるが、収穫調整の手間が大変なことから、砂壤土で排水のよいほ場を選ぶ。 	対象病害虫																										
10	ハウス ○	<p><施肥></p> <ul style="list-style-type: none"> ・元肥は、は種10日前にはすき込んでおく。追肥は、は種後1ヶ月後と、地上部を刈り取った1月頃に施す。 	<p><本ぼ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・ヨトウムシ、アブラムシ類 ・軟腐病、灰色かび病 																										
11		<p><畝立て、は種></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うね幅は90cmで、高く立てる。条間は15～20cmにまき溝を切る。 ・種子はあらかじめ12～24時間水に浸漬し、2条まきして軽く覆土する。覆土が厚いと発芽しにくいので注意する。 																											
		<p>施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>棉実油粕</td> <td>240</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>硫酸加里</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥		1回目	2回	堆肥	2,000			苦土石灰	80			ようりん	20			棉実油粕	240	120	120	硫酸加里	20	10	10
肥料名	元肥	追肥																											
		1回目		2回																									
堆肥	2,000																												
苦土石灰	80																												
ようりん	20																												
棉実油粕	240	120	120																										
硫酸加里	20	10	10																										
12		<p><間引き></p> <ul style="list-style-type: none"> ・は種後、約20日で本葉が1枚展開してくるので、間引いて3～4cm間隔にする。栽植密度は1㎡当たり70～80株にする。 																											
1	△	<p><葉刈り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培でも、ビニール展張前に生育した地上部を十分、霜に当てて倒伏させた葉柄や枯れた葉を刈り取り、展開葉1～2枚残す。 																											
2	◇	<p><収穫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉柄が35～40cm、根が15～20cmで太さが1cm以上になれば収穫する。 ・葉柄を手で強く握ると変色するので取り扱いに注意する。 																											
3	□																												
凡例	○：は種 ◇：ビニール被覆開始	△：葉刈り ◆：ビニール被覆終了	—：生育期 □：収穫																										

プリンスメロン

- 1 品 種：ニューメロン、プリンス。 台木：新土佐1号。
- 2 は 種 量：700粒/10a。
- 3 栽植密度：うね幅240cm、株間90cm、1条植、 約450株/10a。

月	主な作型	作 業 等														
		管 理・施 肥 等	防 除													
2	◇ ○ ~~~~~ ▲	<ul style="list-style-type: none"> ・高温、乾燥を好む作物のため、パイプハウス又はトンネル栽培が良い。 ・穂木のプリンスメロンをは種した約1週間後に台木をは種し、その1週間後に呼び接ぎする。接ぎ木後、クリップで止め、10日後にプリンスメロンの根を切断する。 	対象病害虫 <育苗期> ・苗立枯病													
3	◆ ~~~~~ ◇ ◎ C	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗日数40日で定植する。 ・子づるは揃いが良いもの3~4本残し、その他のものは小さいうちに摘除する。 	<本ぽ> ・ウリハムシ、アブラムシ類、ハダニ類 ・つる枯病、べと病、えき病、うどんこ病、炭そ病													
4		施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th>元肥</th> <th>追 肥</th> </tr> <tr> <th>3/中</th> <th>5~6月に3回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆 肥</td> <td>2,000</td> <td rowspan="4">30×3回</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>高度化成 (10-15-10)</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>NK化成 (17- 0-17)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追 肥	3/中	5~6月に3回	堆 肥	2,000	30×3回	苦土石灰	80	高度化成 (10-15-10)	100	NK化成 (17- 0-17)
肥料名	元肥	追 肥														
	3/中	5~6月に3回														
堆 肥	2,000	30×3回														
苦土石灰	80															
高度化成 (10-15-10)	100															
NK化成 (17- 0-17)																
5		<ul style="list-style-type: none"> ・子づるは17~20節で摘心する。 ・10~13節目の果実に人工受粉する。受粉は午前10時頃までに終了する。 ・各子づるに3果は残し、病害虫の被害を受けたもの等商品性の低いものは思い切って摘除していく。 														
6	□ □ □ □ □	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥は果実が卵大の頃から3回程度に分けて施用する。 ・収穫は果実付近の葉が枯れ始める頃が目安。 (果柄離脱3~4日前) 														
7	□ □ □															
凡例		○：は種 ~~~~：育苗期 ▲：接ぎ木 ◎：定植 —：生育期 □：収穫 ◇：ハウス保温等開始 ◆：ハウス保温等終了 C：雨除け開始 ㄷ：雨除け終了														

ブロッコリー

- 1 品種：①シャスター、ハイツ、②緑嶺、③グリーンビューティなど。
- 2 は種量：普通育苗では60~80m²/10a、セル成型苗育苗では20m²/10a。
- 3 栽植密度：うね幅120cm、株間40cm、条間40cm、2条植、4,000株/10a。

月	主な 作型	作 業 等		防 除																									
		管 理・施 肥 等																											
7	①②③ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・普通育苗では幅1.2m、高さ10cm位のまき床を作る（本ぼ1a当たり約1m²を準備する）。 ・床面に5~6cm間隔に浅い条をつけ、種をまき、軽く覆土し、敷きわらをして十分灌水する。 ・暑さを防ぐために寒冷紗で日覆をする。 ・2、3日で発芽するので早めに敷きわらを除き、密生部分を間引く。 	<p>対象病害虫</p> <p><育苗期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイダラメイガ、コガ、ヨウムシ類、アブラムシ類 ・苗立枯病、 																										
8	○	<ul style="list-style-type: none"> ・過乾燥、過湿にならないよう朝にかん水する。 ・移植床を本ぼ10a当たり60~80m²準備する。移植10日前に1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰120g、ようりん50g、普通化成60~80gを施用し、耕うんしておく。 	<p><本ぼ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・コガ、ヨウムシ、アブラムシ、タマキソウガ、ヨトウムシ類 ・根こぶ病、白斑病、黒斑病、べと病、軟腐病 																										
9	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・本葉2~3枚の時に、12×12cmの間隔に移植し十分かん水し、まき床に準じて日覆する。 ・とろ箱にまいて、本葉2~3枚時に3号ポットなどに鉢上げしたり、セル育苗してもよい。 ・かん水量が多すぎたり、日中にかん水したりすると、苗立ち枯れや徒長を招くので注意する。 																											
10	□	<ul style="list-style-type: none"> ・定植の10日前に元肥施用、耕うん整地を行う。 ・定植は本葉5~5枚の若苗を用いる（頂花蕾どりは4000株、頂・側花蕾どりは3000株程度）。 	<p>施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追 肥</th> </tr> <tr> <th>1回</th> <th>2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (12-8-10)</td> <td>160</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (14-8-10)</td> <td></td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追 肥		1回	2回	堆肥	2000			苦土石灰	100			ようりん	20			高度化成 (12-8-10)	160			高度化成 (14-8-10)		60	60
肥料名	元肥	追 肥																											
		1回	2回																										
堆肥	2000																												
苦土石灰	100																												
ようりん	20																												
高度化成 (12-8-10)	160																												
高度化成 (14-8-10)		60	60																										
11	□	<ul style="list-style-type: none"> ・セル育苗の生育期間は、20日を目安とする。 ・施肥 早生種は総量の2/3を、晩生種では1/2を元肥で施し、残りを2回に分けて追肥する（1回目10月頃、2回目1月頃。頂花蕾のみ収穫する場合は最終の追肥は花蕾が見え始めた頃）。 ・早生種では初期生育を旺盛にし、外葉を大きくすることが良品生産につながる。 ・冷涼な気候に入ると急速に生育が早まり、倒れやすくなるため、中耕除草を兼ね、株元に土寄せを行う。 																											
12	□																												
1	□																												
2	□	<ul style="list-style-type: none"> ・生育盛期、特に花蕾発育期に乾燥すると、収量並びに品質に悪影響をきたすため、かん水に努める。 																											
3	□	<ul style="list-style-type: none"> ・花蕾周辺にすき間が出始めた頃が収穫適期。 																											

凡例 ○：は種 ~~~~：育苗期 ◎：定植 —：生育期 □：収穫

ほうれんそう

- 1 品 種：春まき；晩抽パルク、オリオン。 秋まき；強力オーライ、アトラス。
- 2 は種量：6～8ℓ/10a。
- 3 栽植密度：うね幅80～90cm、2～3条、条まき。

月	主な 作型	作 業 等														
		管 理・施 肥 等	防 除													
1			対象病害虫													
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌が酸性になると生育が極端に悪くなるので、石灰質資材を投入してpHを7程度に調整する。 ・ は種 そのままは種すると発芽が不揃いになるため、種を一昼夜浸漬した後、濡れタオルで包んで暖かい場所に2日程度置く。芽を切ると直ちに種をまく。 ・ 本葉が出始めたころ、株間5cmになるよう間引く。 <p style="text-align: center;">施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元 肥</th> <th>追肥</th> </tr> <tr> <th>2回に分けて施用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>配合肥料 (14-10-13)</td> <td>100</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>菜種油粕</td> <td></td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春まきは生育が早く、肥切れを起こすととう立ちしやすいので、元肥を中心にし、追肥は早めに行う。 ・ 追肥は、本葉2～3枚の頃、うねの上に条を切って施用する。 ・ 晩秋まきの場合は生育期間が長くなるので、施肥量を増やす。追肥も2回くらいに分けて施用する。 ・ 収穫 草丈25cmくらいで収穫する。 収穫前約1週間は乾燥気味に管理する。 収穫直前に備中鍬を入れて根を切っておくと、収穫しやすい。 	肥料名	元 肥	追肥	2回に分けて施用	苦土石灰	150		配合肥料 (14-10-13)	100	50	菜種油粕		100	<p><本ぼ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アブラムシ類、ヨトウムシ類、アザミウマ類 ・ ベと病
肥料名	元 肥				追肥											
			2回に分けて施用													
苦土石灰	150															
配合肥料 (14-10-13)	100		50													
菜種油粕			100													
3	○															
4	□ □															
5	○ □															
6	□															
7																
8																
9	○															
10	○ □															
11																
12	□ □ □															
凡例	○：は種	—：生育期	□：収穫													

種まきから収穫まで1か
 ~10月半、冬場は3か月
 早く収穫

みずな (小・中株)

- 1 品種：早生系千筋、白鯨、京みぞれ。 「京みずな」 → (サラダみずな)
- 2 は種量：6~8 dl/10a.
- 3 栽植密度：(小株) うね幅100cm、株間5~7cm、 2条まき 約40,000株/10a.
 (中株) うね幅100cm、株間10~12cm 2条まき 約20,000株/10a.

水不足
 農家は
 定植時
 からの
 みずな
 を栽培
 しては

月	主な作型	作業等												
		管理・施肥等	防除 対象病虫害											
8		<ul style="list-style-type: none"> ・は種は条まきとし、間引きにより、株間5~7cm (中株は10~12cm) にする。高温期は粗植にする ・低温期は、ハウスやトンネル被覆により保温する。 → 128穴 ・セル成型苗を利用すると、ほ場の回転率を上げることができる。 	<p><本ぼ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コナガ、アブラムシ類、ヨトウムシ類 ・根こぶ病 											
9		<ul style="list-style-type: none"> ・元肥は施用せず、追肥のみとする。 ・追肥は、生育期間が短いときは、1回とするが、作期が長いときは2回に分ける。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">移植も可能 →</div>											
10		<p style="text-align: center;">施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th>追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td rowspan="3">60</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>高度化成 (13-8-10)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥	1回目	堆肥	2,000	60	苦土石灰	100	高度化成 (13-8-10)		<p>移植</p> <p>発芽率 → 95%以上</p>
肥料名		元肥			追肥									
			1回目											
堆肥		2,000	60											
苦土石灰		100												
高度化成 (13-8-10)														
11														
12														
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														

11/4
 栽培方に持ってきたミニズなは、10月初旬にまたもの、今年はやや平年より遅かった。

＊ みずなと豚の水たぎがあいり、
 ＊ 昔は、ハリハリ万歩でくじろとみずなを良くたいた
 今は、豚と良く合う。

モロヘイヤ

- 1 品種：国内では品種の成立はないが、分枝性、耐倒伏性を有する系統が利用されている。
- 2 は種量：10m²/10a.
- 3 栽植密度：うね幅100cm、株間45cm、2条植、約2,200株/10a.
- 4 種やさやは毒を含有するので食れない。

月	主な作型	作業等														
		管理・施肥等	防除													
4		<p>〈適地〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育適温25~30℃の高温性作物であり、日照、排水の良い場所を選ぶ。 <p>〈は種〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10m²当たり化成(8-8-8)0.5kgを施した苗床に、10cm間隔に条まきする。 ・軽く覆土をして十分かん水する。 ・発芽後10日ほどしたら株間5cmに間引きする。 ・発芽にも高温が必要なので5月上旬までは種では、トンネル被覆する。 	<p>対象病害虫</p> <p>〈本ぽ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・マメコガネ、ハスモンヨトウ、ハダニ類、スリップス類 ・葉ぶくれ病 													
5		<p>施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th>追肥</th> </tr> <tr> <th>毎月1回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td rowspan="4">30×4</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>乾燥鶏糞</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>普通化成(8-8-8)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥	毎月1回	堆肥	2,000	30×4	苦土石灰	40	乾燥鶏糞	500	普通化成(8-8-8)		
肥料名		元肥			追肥											
			毎月1回													
堆肥		2,000	30×4													
苦土石灰		40														
乾燥鶏糞		500														
普通化成(8-8-8)																
6																
7		<p>〈定植〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本葉4~5枚の苗を定植する。 														
8	<p>〈収穫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈50cmになれば、先端から20~25cmのところから摘心を兼ねて、はさみで摘んで収穫する。 ・やわらかい葉を収穫するため、追肥と合わせ、十分かん水する。 ・側枝が伸びてきたら順次収穫する。 ・収穫する際は、必ず1~2節残して収穫する。 															
9	<ul style="list-style-type: none"> ・短日になると簡単に花が咲き、さやができるので食べないように特に注意する。 															
10																
<p>凡例 ○：は種 ~~~~：育苗期 ◎：定植 —：生育期 □：収穫 ∩：トンネル被覆開始 U：トンネル被覆終了</p>																

落花生

- 1 品種：ナカテユタカ、アズマユタカ、千葉半立。
- 2 は種量：1粒蒔きで5kg、2粒蒔きで8kg/10a。
- 3 栽植密度：うね幅70cm、株間25~30cm、4,700~5,700株/10a。

月	主な作型	作業等												
		管理・施肥等	防除											
4	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過湿には弱いので排水の良い畑を選ぶ。 ・ 雑草が繁茂しやすいので、マルチ栽培をする(マルチは開花時に除去する)。 ・ 高温性の作物なので5月中旬以降には種する。 ・ は種直前にさやからまめを取り出し、大きさの中程度のつやの良いものを細いほうを下向き又は水平になるようは種する。覆土は3~4cm。 ・ 初期生育は遅いので除草に努める。 ・ 7月始めに開花が始まるのでマルチ栽培の場合はマルチを除去し、株元に土寄せをする。落花生専用マルチや厚さ0.02mmのマルチを使用する場合は除去の必要ない。 ・ 品種により差があるが開花後80日から95日で収穫する。前もって試し掘りをし、適期収穫を心がける。 ・ 収穫前に霜に会うと品質が悪くなるので注意する。 ・ 掘り取った株は畝の上で十分に乾燥させ、取り入れる。 	対象病害虫											
5			施肥例 (kg/10a) <table border="1" style="margin: 5px auto;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>PK化成 (0-20-20)</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	堆肥	2,000	苦土石灰	60	PK化成 (0-20-20)	40	普通化成 (8-8-8)	40	<本ぼ> ・ 雑草 ・ ヨトウムシ類、コガネムシ等 ・ そうか病、褐斑病、さび病
肥料名			元肥											
堆肥			2,000											
苦土石灰			60											
PK化成 (0-20-20)			40											
普通化成 (8-8-8)			40											
6														
7														
8														
9														
10	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>													
凡例	○：は種	◎：定植	—：生育期	□：収穫										

ラディッシュ

- 1 品種：
春・秋まき；コメット、カラフルファイブ、フレンチ・ブラックファスト、雪小町。
夏まき；サクサ。
- 2 は種量：1～2ℓ/10a.
- 3 栽植密度等：幅60cm、高さ10cm程度の平床を作る。平床に種子をばらまくか、条間10cmのすじまき。

月	主な作型	作業等																			
		管理・施肥等	防除																		
3		<ul style="list-style-type: none"> ・は種の7～10日前に20cm以上の深さに耕し、元肥を施し、土とよくなじませる。1週間後、再度十分耕して平床を作る。 	対象病害虫 <本ぼ> ・アブラムシ類、アトム																		
4		<p style="text-align: center;">施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> <th>追肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通化成 (8-8-8)</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>棉実油粕</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>液肥</td> <td></td> <td>適宜施用</td> </tr> </tbody> </table>	肥料名	元肥	追肥	堆肥	2,000		苦土石灰	100		普通化成 (8-8-8)	100		棉実油粕	100		液肥		適宜施用	
肥料名		元肥	追肥																		
堆肥		2,000																			
苦土石灰		100																			
普通化成 (8-8-8)		100																			
棉実油粕		100																			
液肥			適宜施用																		
5																					
6		<ul style="list-style-type: none"> ・は種後、5mm程度の厚さに覆土し、土が乾燥している場合はかん水を十分に行う。 																			
7		<ul style="list-style-type: none"> ・本葉が2枚展開するまでに間引きを終える。 ・夏まきで3～4cm、それ以外の季節にまいた場合は2～3cmの株間になるように間引く。 																			
8		<ul style="list-style-type: none"> ・本葉3枚の頃から、地下部の根が肥大し始める。 																			
9	<ul style="list-style-type: none"> ・土が乾きすぎると裂根するので、適宜かん水する。 ・葉色が薄くなってきたら、液肥をかん水代わりに施す。 																				
10	<ul style="list-style-type: none"> ・トンネル内で育てれば、冬どりができる。 ・夏どりをする際は、高温障害が出やすいので、寒冷紗などを張って、気温の低下を図る。 																				
11	<ul style="list-style-type: none"> ・品種、資材をうまく利用すれば年中栽培できる。 																				
12	<ul style="list-style-type: none"> ・遅れないよう収穫する。遅れると裂根する。 																				
1																					
凡例		○：は種 —：生育期 □：収穫 ∩：トンネル被覆開始 U：トンネル被覆終了																			

リーフレタス

- 1 品種：グリーンウェーブ、レッドウェーブ、レッドファイヤーなど。
- 2 は種量：40ml/10a.
- 3 栽植密度：うね幅100cm、株間30cm、条間30cm、2条植、約6,600株/10a.

月	主な作型	作業等															
		管理・施肥等	防除														
8			対象病害虫														
9	○ ○ ~~~~~	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラグトレイを利用しては種し、種がかくれる程度に薄く覆土し、十分にかん水をして、新聞紙等で覆う。 ・ 発芽したら、すぐに覆いを取り、十分に光に当て、丈夫な苗に育てる。 ・ 本葉2枚時に、通気、排水の良い用土を用いたビニールポットに浅めに移植し、十分かん水する。 	<p><育苗期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヨトウムシ類、アブラムシ類等 														
10		<p>◎ ◎</p> <p>施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>肥料名</th> <th>元肥</th> <th>追肥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ようりん</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成 (14-10-13)</td> <td>100</td> <td>30~40</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元肥施用、うね立て後、本葉5~6枚のそろった苗を株間30cm条間30cmで、浅めに植え付け、十分にかん水をする。 ・ 生育中は乾燥に注意する。 ・ 追肥は生育の状況を見ながら行う。 ・ 追肥を液肥で行うのも可能 	肥料名	元肥	追肥	堆肥	2,000		苦土石灰	100		ようりん	20		高度化成 (14-10-13)	100	30~40
肥料名	元肥	追肥															
堆肥	2,000																
苦土石灰	100																
ようりん	20																
高度化成 (14-10-13)	100	30~40															
11	□ □ □ □ □ □ □ □	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元肥施用、うね立て後、本葉5~6枚のそろった苗を株間30cm条間30cmで、浅めに植え付け、十分にかん水をする。 ・ 生育中は乾燥に注意する。 ・ 追肥は生育の状況を見ながら行う。 ・ 追肥を液肥で行うのも可能 															
12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫は株が大きくなり本葉20~25枚で心葉がやや内側に巻いてきた時が適期。 ・ 降雨時や降雨直後の収穫は日持ちが悪くなるので避ける。 															
1																	
<p>凡例 ○：は種 ◎：定植 ~~~~~：育苗期 —：生育期 □：収穫</p>																	

わけぎ

- 1 品種：小球種早生系（木原早生、寒知らず）。
- 2 種球量：400kg/10a.
- 3 栽植密度：うね幅100cm、株間20cm、2条植、約10,000株/10a.

月	主な作型	作業等																							
		管理・施肥等	防除																						
9	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・砂壌土、砂土で排水が良い所を選ぶ。 ・酸性を嫌うので、石灰質肥料で中性近くに矯正する。 	<p>対象病害虫</p> <p><本ぽ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑草 ・ネダニ、ネキリムシ、スリップス類 ・べと病、えき病 																						
10	◎	<p><定植></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種球の外皮を取って、1～2球に分球し植え付ける。 																							
11		<p>施肥例 (kg/10a)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料名</th> <th rowspan="2">元肥</th> <th colspan="2">追肥</th> </tr> <tr> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堆肥</td> <td>2,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>苦土石灰</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>化成(8-8-8)</td> <td>180</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高度化成(14-8-10)</td> <td></td> <td>40</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>		肥料名	元肥	追肥		1回目	2回目	堆肥	2,000			苦土石灰	80			化成(8-8-8)	180			高度化成(14-8-10)		40	60
肥料名	元肥	追肥																							
		1回目	2回目																						
堆肥	2,000																								
苦土石灰	80																								
化成(8-8-8)	180																								
高度化成(14-8-10)		40	60																						
12		<ul style="list-style-type: none"> ・追肥は生育状況を見て施用し、同時に土寄せを行う（2回程度）。 																							
1		<ul style="list-style-type: none"> ・草丈30～40cmで収穫する。 ・収穫後、根部を水につけ、古葉、外のうす皮をとってきれいに調製する。 																							
2		<p><種球の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月下旬から5月上旬に葉が倒れたら、株を抜き取り、2～3日畑で天日乾燥し、土を落とし株単位で束ね、風通しのよい軒下等に吊しておく。 																							
3																									
4																									

凡例 ◎：定植 —：生育期 □：収穫